心理学実験ⅡB

科目コード	FB3536

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR（実験）	2年以上	柴田　理瑛・高木　源・名和　界子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、ｐ.65「心理学実験Ⅱ」（科目コード：FB2506、２単位、履修方法SR）を参照してください。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

※2022年度より、一部の担当教員が変更になりました。

科目の概要

■科目の内容

「心理学実験ⅡA」ｐ.56参照

■到達目標

「心理学実験ⅡA」ｐ.56参照

■教科書（「心理学実験ⅠA・ⅠB・ⅡA」「心理学研究法A」と共通）

「心理学実験ⅠA」ｐ.37～38参照

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験ⅠA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「心理学実験ⅡA」ｐ.57参照

■評価の方法・基準

①スクーリング受講（２日間）＋②実験レポート（２つ）提出・合格＋③単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：仙台会場２日間連続で受講してください。

②実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、またはスクーリング時に指示される期限までに提出して合格することが

必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（１課題）提出・合格：スクーリング受講後に、ｐ.64記載の「単位認定レポート課題」に示す２つの課題の中から１つを選び、スクーリング時に指示される期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■受講上の注意

推奨する受講順は「ⅠA」→「ⅠB」→「ⅡA」→「ⅡB」です。

「心理学実験ⅡB」は、「ⅠA」「ⅠB」「ⅡA」のいずれかのスクーリングを受講済みであることを推奨しています。どうしても2023年度に「ⅡB」を一番最初に受講希望の場合は、下記①②を行ってください。

①「ⅠA」事前レポート課題（ｐ.42参照）を、「ⅡB」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理学実験ⅡA」ｐ.57～58参照

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「鏡映描写」、「社会的影響」という２つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内　容
1	オリエンテーション／鏡映描写①	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	鏡映描写②	実験実施
3	鏡映描写③	データ分析と実験レポートの記述法

回数	テーマ	内　容
4	鏡映描写④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
5	社会的影響①	テーマ及び実験方法の説明
6	社会的影響②	実験実施
7	社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法
8	社会的影響④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／2つのテーマを通したまとめ

▶実験 1 「鏡映描写」　（担当　高木　源）

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験 2 「社会的影響」　（担当　柴田理瑛）

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中の 2 つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、 4 色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

『福祉心理学科　スタディ・ガイド』の II 章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、本冊子巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習 9 のポイント

「心理学実験 II A」 p. 59～60参照

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題1 （担　当 高木　源）	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。
課題2 （担　当 柴田理瑛）	社会的手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選び、スクーリング時に指示される期限内に提出してください。レポート提出台紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×４枚まで）。

課題1 アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておくと、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしていた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独持のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずです。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題2 アドバイス

スクーリング時の解説、配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけではなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題１：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題２：アロンソン. E.　岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル　第11版　人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学　ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミックス　集団と群集の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学　よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年